

図書館だより

令和3年5月21日号



1学期の中間考査が終わりました。みなさん手ごたえを感じることはできたでしょうか。日ごろの勉強の成果が結果に表れているといいですね。テスト期間中は読書を控えていた人も一息入れて、ひさしぶりに読書をたっぷり楽しんでみませんか。新着本も続々入ってきているので、図書館にぜひ足を運んでほしいです。館内では「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本 2020」を展示中です。本屋大賞に負けず劣らずこのイチオシ本も司書さんのおすすめだけあっておもしろい本が揃っているので読んでみてください。

●新緑の季節におすすめしたい本

596.6-ホ 『日本茶のスイーツ』

本間 節子 || 著 世界文化社

5月は新茶の季節でもあります。抹茶のスイーツは馴染み深いですが、煎茶やほうじ茶も飲むだけでなくお菓子に使っておいしくいただくことができます。煎茶のレアチーズケーキやマカロン、ほうじ茶のフィナンシェやシュークリームなどたくさんのおいしいようなレシピが載っています。日本茶の新たな楽しみ方に出会ってみませんか。

629-イ 『庭園さんぽ』

インク・コーポレーション || 著 グラフィック社

日本の庭園の美しさとおもしろさが堪能できる1冊。西洋の庭園と比べると渋く感じられますが、趣向を凝らした庭の数々を眺めているとその奥深さに惹かれていきます。造形美、自然美、空間美と様々な視点から楽しんでください。緑の映える庭園もたくさんあります。見ているだけで心が穏やかになれるので疲れた時にもおすすめです。

●6月公開の映画の原作を読んで先取り

913.6-ニ 『漁港の肉子ちゃん』

西 加奈子 || 著 幻冬舎

明石家さんまさんがプロデュースして作るアニメ、肉子ちゃんの声は大竹しのぶさんです。元奥さんに、なんて役名の仕事をオファーするのか？なぜそれを受けるのか？この本を読めばわかるような気がします。きっと最後の最後になるまでそうは思えないでしょうが、しのぶさんはさんまさんにとっていつまでも、マドンナなんですね。

933-ハ 『夏への扉』 新訳版

R. A. ハインライン || 著 早川書房

猫のピートは冬を嫌い、どれか一つぐらい夏に通じている扉があるはずだと探し続ける不屈の闘志の持ち猫です。相棒のダニエルは婚約者と親友に裏切られ、その上勝手にコールドスリープさせられて30年先の未来に身一つで放り出されます。これ以上ない絶望的な状況。ダニエルも気にはなるのですが、ピートはどうなるのでしょうか。

●先生の『今月はこの本を読みました』～本多先生の今月読んだ本は…～

今月は913.6-ジ『^{はし}疾れ、新蔵』(志水 辰夫 || 著 徳間書店)を読みました。新蔵は主人である須河幾一郎の命を受けて、江戸にいる十歳の姫を越後の春日荘まで無事に送りどけるという物語です。時代は江戸時代、場所は埼玉県も舞台になるので「多分この辺を通りながら、追手から逃れたんだなあ」と思いながら読みました。

途中で出会う人々との人情、そして意外な展開、最後までどういう終りになるのかハラハラドキドキしながらページを捲りました。

図書館こぼれ話

図書館に低書架が新しく加われました。それに伴い、図書館は書架の配置換え中。今までよりも見やすく、使いやすく、興味を引くレイアウトにしていきたいと思います。お楽しみに。

●気になる新着本

S383-カ 『平安男子の元気な！生活』

川村 裕子 || 著 岩波書店
藤原行成くん(実在の人物)の1日を追いながら平安貴族の男子のリアルな生活を覗き見るすることができます。1000年前の男子たちも仕事にライバル対決に恋にオシャレに大忙しな様子。優雅なイメージが一変します。

915-タ 『旅を^{すみか}栖とす』

高橋 久美子 || 著 角川書店

『まだもう少し海外へは行けそうにない今、この本で旅をしていただけたら嬉しい』との思いが込められた旅行記。灼熱のタイからは熱風と屋台の匂いが、ハプニング続きの台湾からは人の温かみが、美食のフランスからはセーヌ川のほとりで食べるバケットのおいしさが伝わってきます。